

带状疱疹ワクチンについて

带状疱疹ワクチンのトピックス

- ・ 2025 年 4 月より、带状疱疹ワクチンが定期接種の対象となりました。
- ・ 主に 65 歳の方が対象ですが、経過措置として 70・75・80 歳などの方も対象となる場合があります。
- ・ 神戸市では任意接種助成制度は終了し、明石市では 50～60 歳の方に対する市独自の任意接種助成制度が 2026 年 3 月 31 日まで継続されています。

带状疱疹は、50 歳以上で増える病気で、ワクチンによって予防が可能です。抗ウイルス薬による治療は可能ですが、皮膚病変が治ったあとも痛みが長く残ることがあり、日常生活に大きな影響を与えることがあります。当院では、神戸市・明石市の制度に対応した带状疱疹ワクチン接種を行っています。

1. 带状疱疹とは

水痘・带状疱疹ウイルスは、小児期に「みずぼうそう」を引き起こすウイルスです。みずぼうそうが治ったあとも、このウイルスは体内の神経に潜んでおり、加齢やストレス、病気（がん・糖尿病など）、薬（ステロイドなど）による免疫力低下によって再活性化することがあります。

その結果、潜んでいた神経周囲の皮膚に「带状疱疹（たいじょうほうしん）」を発症します。带状疱疹は、80 歳までに約 3 人に 1 人が経験すると推測されています。

带状疱疹では、皮膚のピリピリ・チクチクとした痛みを伴う赤い斑点や小さな水ぶくれが、神経に沿って出現します。皮膚病変に先立って痛みが出ることもあり、発症初期は診断が難しいことがあります。

また、皮膚病変が治ったあとも痛みが慢性化することがあり、これを「带状疱疹後神経痛（PHN）」と呼びます。さらに、皮膚病変の部位によっては、眼周囲の带状疱疹から角膜炎を起こして視力低下・失明の恐れが生じたり、耳周囲の带状疱疹から顔面神経麻痺・難聴・めまい（Ramsey-Hunt 症候群）を生じたりすることがあります。

2. 定期接種について（特に明石市・神戸市の方へ）

2025年4月より、带状疱疹ワクチンが定期接種の対象となりました。主に65歳の方が対象ですが、経過措置として70・75・80歳などの方も対象となる場合があります。神戸市では任意接種助成制度は終了し、明石市では50～60歳の方に対する市独自の任意接種助成制度が2026年3月31日まで継続されています。

※対象年度を過ぎると任意接種となります。

詳しくは各自治体のHPをご参照ください。

明石市：[高齢者等带状疱疹予防接種／明石市](#)

神戸市：[神戸市：带状疱疹ワクチンの定期接種](#)

3. 带状疱疹ワクチンの種類

带状疱疹の予防にはワクチンが有効です。現在、本邦では2種類のワクチンが使用できます。

特にシングリックス®は、現在広く使用されている带状疱疹ワクチンで、当院でも推奨しています。従来の生ワクチンより有効性が高く、また、ステロイドや免疫抑制剤を使用しているために生ワクチンが接種できなかった患者様にも使用が可能です。

一方で、シングリックス®には、注射部位の痛みや発赤などの副反応が比較的多いこと、やや高価であることなどのデメリットがあります。どちらのワクチンが適しているかは、年齢、基礎疾患、免疫状態、費用負担などを踏まえて、医師と相談して決めます。

4. 2種類のワクチンの比較

	シングリックス®	水痘ワクチン
ワクチンの種類	不活化ワクチン (ステロイド・免疫抑制剤使用中でも接種可)	生ワクチン (ステロイド・免疫抑制剤使用中では原則接種不可)
接種回数・方法	2か月間隔をあけて2回 筋肉注射	1回 皮下注射
対象者	・定期接種：65歳（年度対象者） ・任意接種：50歳以上（50歳未満でも帯状疱疹リスクが高い方）	・定期接種：65歳（年度対象者） ・任意接種：50歳以上（50歳未満でも帯状疱疹リスクが高い方）
帯状疱疹の予防効果	約90%以上	約50%前後
帯状疱疹後神経痛の予防効果	約85~100%	約66%
効果の持続期間	10年以上持続する	5年間程度 8年で効果減弱の報告
副反応	主に一時的な局所反応（痛みや腫れ）・発熱など	主に一時的な局所反応
当院での任意接種価格	21,000円×2回	7,200円

5. 当院での接種について

接種は予約制です。神戸市・明石市で帯状疱疹ワクチンをご検討の方は、お気軽にご相談ください。2種類のワクチンのうち、どちらの接種を行うべきか悩まれている方は、一度内科外来を受診し、医師にご相談ください。

内科受診で一度医師と相談をご希望の場合は、相談のうえ接種するワクチンを決めて、後日接種を行うこととなります。受診当日の接種はできませんのでご注意ください。

6. まとめ

带状疱疹は、50歳以上で増える病気であり、ワクチンによって予防が可能です。特に、痛みが長く続く带状疱疹後神経痛や、眼・耳の合併症を防ぐ意味でも、予防の意義は大きいと考えられます。

定期接種の対象となる方は制度を活用し、それ以外の方も任意接種として検討することができます。どのワクチンを選ぶか迷われる場合は、基礎疾患や免疫状態も踏まえて、医師と相談しながら決めることをおすすめします。

参考：厚労省 HP [带状疱疹ワクチン](#) | [厚生労働省](#)

接種をご希望の方も、接種するか迷っている方も、お気軽にご相談ください。

▶ 带状疱疹ワクチンのご相談はこちら ([お問い合わせフォーム](#), TEL : 078-912-7575)

FAQ

Q. 带状疱疹ワクチンは何歳から受けるべきですか？

A. 定期接種は65歳が対象ですが、50歳以上の方は任意接種として受けることができます。

Q. シングリックス®と生ワクチンのどちらを打てばいいですか？

A. 予防効果を優先するならシングリックス®をおすすめします。費用を抑えたい場合は、生ワクチンが選択肢になることがあります。

Q. 副反応は大丈夫ですか？

A. 注射部位の痛みや発熱がみられることがありますが、多くは数日で改善します。

※本内容は2026年時点の制度に基づいています。